

はじめに

大学の入試問題では、読解問題が最も大きな割合を占めていますし、その割合はますます高くなっています。読解問題を解けるようにすることは、受験を突破するうえで避けては通ることができません。それでは、読解問題を解くためには、どのような力が必要なのでしょう。語い力に加えて、一文一文の構造を正確に捉え、内容を把握する力が必要です。さらに、複数の文が集まって文章が構成されている以上、文と文のつながり、すなわち文脈を読み取る力も必要です。また、今日的な話題が出題されるが増えています。そうした話題について知っておくことも、内容を理解するためには大切です。

こうした力をつけるためには、何よりも良い英文を読み、良い問題を解くことです。そこで、これまでに出題された問題の中から、英文の長さや難易度を基準に繰り返し読むに値する英文を選び、4冊の問題集にまとめました。設問は、ある文章に対して問うべきこと—内容の理解と英語の理解—という観点から、ほぼ全面的に作り変えてあります。

やっておきたい英語長文300は、200語から400語の比較的短めで、やや易から標準レベルの英文30題で構成されています。共通テストレベルの英文を読みこなせるようになることが目標です。また、一文一文の構造を正確に捉え、内容を把握するために必須の表現を **Point** にまとめ、基礎的なものから順番に無理なく学習できるように問題が配列されています。

やっておきたい英語長文300を終えた人は、やっておきたい英語長文500に挑戦してください。



本書が皆さんの想いの実現に向けて、役に立つことを願ってやみません。それでは、問題1にトライしてみましょう。

最後に、本書を改訂するにあたり、Kathryn A. Craft 先生に英文校閲を行っていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

著者記す

本書の使い方

- 1 問題には語数と標準解答時間を示してあります。標準解答時間を目標に問題を解いてください。
- 2 解説には、解答と設問解説、構文・語句解説があります。設問解説を読み、解答を確認してください。設問解説中の第1・2段落第5文といった表記は、構文・語句解説の番号に対応しています。設問解説中の **Point ⑤** は、対応する表現のポイント番号です。
- 3 構文・語句解説では、訳例と設問解説で触れなかった、構文および語句の解説があります。設問以外の箇所理解できなかった部分を確認してください。
- 4 構文・語句解説では、問題文から下線を省き空所を埋めた形で英文を再録してあります。英文を繰り返し読んでもらいたいからです。こうすることが、速読の練習にもなりますし、語いの定着にもつながります。
- 5 英文を読む際には、音読とリスニングを組み合わせることで、リスニング力も強化できます。英語のネイティブ・スピーカーが読み上げた音声を用意されていますので、利用してください。

音声は、パソコンやスマートフォンから下記の URL にアクセスして聴くことができます。QR コードからもアクセスできます。

<https://www.kawai-publishing.jp/onsei/01/index.html>



- ・ファイルは MP4形式の音声です。再生するには、最新版の OS をご利用ください。

2

過剰な情報

解答

- 問1 彼は、1970年に出版された本の中でそれに言及し、あまりに多くの情報があるとき、人は決定を下すことが困難になりうるのかを説明した。
- 問2 ア、dozens of
- 問3 ウ、negative
- 問4 controlling information rather than being controlled by it
- 問5 ア

▶▶ 設問解説 ◀◀

- 問1 and は mentioned ... 1970 と described ... information の2つの動詞句を結んでいる。published in 1970 は a book を修飾する過去分詞句。▶ **Point ③** that 節は described の目的語になっている。
- mention 「に言及する」 publish 「を出版する」
- describe 「を説明する、の特徴を述べる」
- have difficulty *doing* 「…するのが困難である、…するのに苦勞する」
- make a decision 「決定する」
- 問2 空所(2)を含む文は、直前の第2段落第2文で述べられた「あまりに多くの情報があるとき決定を下すことが困難になる」具体例である。したがって、アが正解。
- ア、「多数ある」イ、「少数ある」ウ、「わずかな数ある」エ、「まったくない」
- 問3 下線部(3)を含む文の次の文に「人々が情報に頼りすぎるようになると、無力や混乱、怒りといった感情が強くなるかもしれない」とあることから、adverse は「悪い、不利な」という意味であると考えられる。
- ア、「有益な」イ、「力強い」ウ、「否定的な」エ、「様々な」
- 問4 直前の文に「問題は、むしろ我々が情報を選び出し、そして有効に利用できることである」とあることから、「21世紀の人々にとって重要な課題は、情報に管理されることではなく、情報を管理することなのだ」という意味になるように、A key challenge for people in the 21st century is [controlling information rather than being controlled by it]. とする。controlling information と being controlled by it はともに動名詞句であるが、動名詞で受動態の意味を表すとき

には *being done* という形になる。→ **Point ②**

- 問5 ア、第3段落第2文の内容に一致。
イ、本文に記述なし。
ウ、第4段落第2・3文の内容に不一致。
エ、本文に記述なし。

Point ② 動名詞

動詞の *ing* 形が名詞の働きをすることがあり、これを動名詞と呼ぶ。動名詞は動詞の性質も持っているため、その後には目的語や副詞(句)などを続けることができる。

例1 My father enjoys **playing** golf every Sunday.

「私の父は、毎週日曜日にゴルフをするのを楽しんでいる」

例2 After **finishing** his work, Koji left without **saying** good-by.

「仕事を終えて、コウジはさよならを言わないで帰ってしまった」

▶▶ 構文・語句解説 ◀◀

第1段落

¹The term "information overload," which refers to the problem of having too much information, is not new. ²These days, however, as more and more information is available thanks to new technologies, it is becoming more problematic than ever before.

¹あまりに多くの情報があるという問題を指す「情報過多」という言葉は新しいものではない。²しかし、最近ではますます多くの情報が新しい科学技術のおかげで手に入るようになって、かつてないほど問題になってきている。

- 1 term 「言葉、用語」 overload 「過多、積みすぎ」 refer to A 「Aを指す」
 the problem of *doing* 「…するという問題」
- 2 these days 「最近、近頃」 more and more A 「ますます多くのA」
 available 「入手可能な」 thanks to A 「Aのおかげで」 technology 「科学技術」
 problematic 「問題のある」 比較級 ... than ever before 「かつてないほど…」

第2段落

¹The first person to popularize the term was writer Alvin Toffler. ²He mentioned it in a book published in 1970 and described that a person can have difficulty making a decision